

**製品名: PPM1E ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab16419**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	84kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PPM1E CAMKN KIAA1072 POPX1
別名	
遺伝子 ID	
SwissProt ID	Q8WY54
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 460~540

**背景**

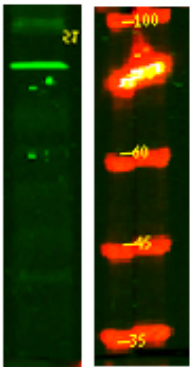
この遺伝子は、セリン/スレオニンタンパク質ホスファターゼの PPM ファミリーのメンバーをコードします。コードされるタンパク質は核に局在し、セリン/スレオニンタンパク質キナーゼ PAK1、5'-AMP 活性化タンパク質キナーゼ (AMPK)、および多機能性カ

ルシウム / カルモジュリン依存性タンパク質キナーゼを含む複数の基質を脱リン酸化および不活性化します。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2012 年 5 月],触媒活性: リン酸化タンパク質 + H<sub>2</sub>O = タンパク質 + リン酸。補因子: サブユニットあたり 2 個のマグネシウムまたはマンガンイオンを結合する。機能: CAMK4 や CAMK2 などの多機能性 CaM キナーゼを不活性化するタンパク質ホスファターゼ (類似性による)。PAK を脱リン酸化および不活性化します。アクチン線維のストレス分解阻害および TNK2/CDC42 による形態変化に関与する可能性がある。類似性: PP2C ファミリーに属する。類似性: PP2C 類似ドメインを 1 つ含む。細胞内局在: C 末端が欠損した短縮型 (メジャーフォーム) は主に細胞質に存在し、核内にも少量存在する。全長のマイナーフォームは核内に存在する。サブユニット: ヘテロ三量体。PAX1 および ARHGEF6 (または ARHGEF7) と相互作用する。

## 研究分野

細胞骨格/ECM; 細胞骨格; 微小フィラメント; アクチンなど; アクチン; シグナル伝達; タンパク質リン酸化; Ser/Thr ホスファターゼ; 細胞生物学; 細胞周期; キナーゼ/ホスファターゼ; ホスファターゼ

## 画像データ



Hela 細胞溶解のウェスタンブロット分析。一次抗体は 1:1000 希釈。二次抗体は 1:10000 希釈。